号泣元県議が示す政活費乱用

にっぽん見構築

不祥事頻発でも高額報酬

1面から続く

「収支報告書を作成いたしましたときの記憶がございませず、お答えすることができませんでした」

4月25日、神戸地裁。論告求刑公判に臨んだ元兵庫県議、野々村竜太郎被告(49)は約913万円の政務活動費(政活費)をだまし取ったとされる詐欺罪について、独特の言い回しで弁明した。

〝号泣〟した前代未聞の記者会見は平成26年7月。

「政活費の存在や在り方を問題提起することになった」と野々村被告の弁護側が今も強調するように、全国で政活費乱用の実態が次々と明らかになっている。

□ □

政活費による切手の大量購入が問題となったのが千葉県市川市議会だ。26年実施の住民監査請求の結果、25年度に3会派が切手代として計約270万円を政活費から支出していたことが判明。「切手は換金率が高く、不正の温床となる可能性が否定できない」と監査委員は指摘した。

市も公認会計士による外部監査で、23~25年度に各会派に支出された切手購入費などを調査し、2千万円超の不適切支出が判明した。指摘を受けた各会派は自主返納したものの、小泉文人市議(43)ら2人は返納を拒否。昨年6月、市議会は2人を「悪質」として調査特別委員会(百条委員会)設置を決定した。

小泉市議らはその後返納したが、昨年11月の百条委では、政活費の精算をめぐる小泉市議の発言が別の市議により明らかにされた。

「先輩、そんな面倒くさいことをすることないですよ。切手を買って換金すれば済んじゃいますし、みんなやってますよ」

議会は4月、政活費の運用手引を改正。切手は支出できない経費となった。

□ □

議会への出席は議員の最低限の義務のはずだ。

「孫をグローバルな人間に育成するため、半年ほど前から家族で行くことを計画していた」。千葉県袖ケ浦市議会で昨年4月中旬、篠崎龍夫市議(70)が市議会の2つの特別委員会を欠席。孫との私的な海外旅行という釈明が周囲をあきれさせた。

4月中旬、篠崎市議は産経新聞の取材に、「市側が議員の都合をもっとちゃんと聞いて、スケジューリング(日程調整)すべきだった」と開き直った。個人旅行は議事日程よりも優先されるべき案件なのか。

□ □

栃木県小山市議会は、女性市職員へのセクハラ行為があったとして、角田良博副議長(66)に対する辞職勧告決議を27年9月と11月、今年2月と3回も可決した。決議に法的拘束力はなく、疑惑を否定する角田氏は辞職せず、現在も副議長。女性職員との言い分も対立し、裁判で係争中だ。角田氏は「事実でもないのに、何回も決議案を出すのは無駄だ」と批判するが、副議長の〝居直り〟に議会は振り回されている。

政策ではなく議員の不祥事が議題をさらう異常事態が各地の議会で続く。

日大の岩井奉信教授(政治学)は「国会と違い、地方は首長の権限が強い一方で議会の権限は弱い」と指摘。「その結果、有権者の関心は低く、どんな人が議員なのか、チェックも甘くなり、モラルが弛緩しているのでは」と話した。

報酬は兼業・兼職が認められながら世界最高の水準。欧米はボランティア、手当のみが主流だ。中央大の佐々木信夫教授は語る。

「議会関連の行事は都道府県で年間100日程度。夜の会合などの(集票)活動もあるだろうが、それらをすべて月ぎめで払う必要は本来ない」

□ □

最高峰が都議である。報酬は月額102万円。ボーナスを含めた年収は1706万3462円(27年度)。議会に出席すれば1日1万~1万2千円の〝日当〟も支給される。

政活費も全国一の1人当たり月60万円。使途にも疑問符が付く。「会議費」の名目で高級すきやき店の弁当代を支払ったり、意見交換名目の「会費」の大半を新年会費に回し、1日に6件はしごしたり。足を骨折した都議が年間約840回タクシーを利用し、全額政活費で充てていた例も。舛添知事の疑惑追及に腰が引けるのもうなずける。

26年度決算によると、報酬や政活費など127人の都議の〝人件費〟に、それを支える議会局職員約150人分の給与などを加えれば、都議会維持の費用総額は計56億円に及ぶ。

住民に見えない議会活動を支えるため、法外な税金がつぎ込まれる。地方議会はそもそも、誰のために存在するのか。これでは不要論にもつながりかねない。

政務活動費 地方議員に調査・研究の経費として議員報酬とは別に支給される。以前は政務調査費と呼ばれていたが、地方自治法の改正で名称を変更し、使い道の範囲も拡大した。資料の作成費や研修の参加費などに充てられ、選挙や政党の活動には支出できない。

問題行為が話題になった地方議員 (呼称・敬称略)

発覚		所属(当時)	名前	内容
平成26年	6月	東京都議	鈴木章浩	女性都議の質問中に「早く結婚したほうがいい」などとセクハラとも取れる発言をしたとされる
	7	兵庫県議	野々村竜太郎	政治資金不正使用問題。会見では号泣し、県議会に批判が殺到した。詐欺罪などに問われ、検察は懲役3年を求刑
	8	大阪府議	山本景	女子中学生に無料通信アプリ「LINE(ライン)」で「ただでは済まさない」などの不適切なメッセージを送信
27	9	堺市議	小林由佳	作成・配布しなかったチラシを政務活動費として計上。市は約1000万円の返還を請求し、小林市議は約400万円を返還。未返還となっている約600万円をめぐり、訴訟に
	11	神奈川県海老名市議	鶴指真澄	短文投稿サイト「ツイッター」に「同性愛は異常」と不適切な書き込み
28	2	宮城県議(議長)	安部孝	政務活動費に違法な支出があるとして、仙台市民オンブズマンが約503万円の返還請求をするよう求める住民訴訟を起こす
		神奈川県葉山町議	細川慎一	横浜市の路上で、覚醒剤を所持したとして覚せい剤取締法違反の罪に問われ、横浜地裁は懲役1年6月、執行猶予3年の判決を言い渡した
	3	滋賀県議	吉田清一	第88回選抜高校野球大会でベスト8まで勝ち進んだ滋賀学園の選手らに「1回戦負けしろ」などと発言したとされる
	4	茨城県鹿嶋市議	高村典令	女子児童を暴行したとして、強姦容疑などで逮捕